

[様式14]

(対象事業：1 子供を対象とした事業及びその開発にかかる事業
4 地域振興と一体になったミュージアム事業)

事業名：高齢者と小学生による所蔵品
を活用した地域振興事業

事業者名：龍野文化伝承会

(管理者 たつの市立龍野歴史文化資料館)

連携事業館名：

住所：兵庫県たつの市龍野町上霞城128-3

TEL：0791-63-0907

FAX：0791-63-0998

HPアドレス：<http://www.city.tatsuno.hyogo.jp/rekishi/>



外観写真

①施設概要

郷土出身の鹿島守之介博士が設立された八重洲ブックセンターより建物の寄贈を受け、平成元年10月31日に開館。たつの市域の原始古代から近世までの生い立ちを、実物、パネル、模型等で紹介。常設展示以外に、年2回、特別展を開催。

②事業の意図目的

「たつの市」では、高齢化が進み、特に城下町一帯ではその傾向が顕著に見られ、商店街もシャッター街となっている。

資料館では、通常展示に使用されることが少ない生活道具を活用して、子供たちが実際に動かす体験会を開催。指導者には地域の高齢者ボランティアが当たり、異世代交流の場とし、同時に開催するワークショップでは、龍野の伝統行事である流し雛を作り、ひな流し当日に参加し行事を活性化させる。

地域も、ひな流しを発展させ、城下町に残された雛人形と所蔵されている文化財を公開展示して、様々な人々の交流の場を作り出し、資料館は、雛の指導、文化財の公開に伴い、保存方法、資料の鑑定等のアドバイスを行うことによって、個人の文化財の把握と保存に務め、地域とのつながりを強める。

③事業概要

資料館で従前から行っていた人形に関する様々な展示と、学習指導要領に合わせた昔のくらしに伴う展示を発展的にまとめ、地域と共に実施。

館蔵の米作りの農具、生活道具、灯りの道具を使い、高齢者ボランティアの指導の下、実際にふれたり使うことによって、小学生に昔の生活体験をする機会を提供、また、龍野で行われている伝統行事である流し雛作りのワークショップを行い、龍野ひな流しの行事に参加を促し、行事を盛り上げると共に、城下町龍野において、地域と協力して、住民所蔵の雛人形・絵画等の文化財の一般公開を行い、資料館は公開資料の保存管理の指導と、資料調査を実施。会期中には、雛の折り紙教室や人形浄瑠璃公演を開催。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他 (ポスター、チラシ、マップ)
作成した報告書等
その他 ()

⑤参加者状況

	参加者人数	延べ	12,731人
内 訳	昔の道具見学体験会	900人	流し雛コンテスト 3000人
	龍野ひなまつり	8000人	雛の折り紙教室 131人
	人形浄瑠璃公演	300人	龍野ひな流し 400人

(1) 事業の実施状況について

昔の道具見学体験会

日時 平成20年1月21日～25日

29日～30日

会場 たつの市立龍野歴史文化資料館

対象 たつの市内小学3年生

18校(全校) 31学級 821名



生活道具の説明をするボランティア

小学3年生の社会科で、古い道具について学習するのに伴い、資料館も古い道具を所蔵していることから、昔の道具に直に触れて学ぶ機会を提供し、市内の小学校に校外学習の場として利用してもらった。指導は、公募した高齢者ボランティアが行った。さらに参加児童には、無料(同伴の保護者は半額)で資料館に入館できる「もう1回券」を配布し、再度来館して、地域の歴史に触れるように促した。

昔の道具見学 資料館が所蔵する米作りの道具、生活道具等約100点を庭先に並べ、道具の名前や用途、使い方等を、実演を交えて説明。

昔の道具体験 実際に道具を使用していた高齢者のボランティアの指導のもと、自由に道具に触れたり、体験する時間を設定。唐箕を使って米と粃を分けたり、千歯扱きや脱穀機で稲から粃を落とす等、昔の米作りの作業を体験。また、石臼できな粉を作る、むしろを織る、釣瓶で水を汲む、龍吐水で水を飛ばすなど、昔の生活を体験。

昔の灯り体験 暗い部屋の中で、灯明皿、行灯、ローソク、ランプ、裸電球を順番に体験。火の発達と昔の人々の灯りに対する気持ちを体験。

流し雛作成ワークショップ

昔の道具見学体験会において、龍野の伝統行事である「流し雛」を作成するワークショップを実施。小学生は、流し雛を折り紙で作製、事前に用意された頭に顔を描き、棧俵に代わり紙皿に貼り付け、表に絵を、裏に願い事を書いた。指導は、流し雛製作経験のある地域の婦人。作品は、流し雛コンテストして、龍野城で展示した。児童へは、この作品を持って、ひな流しの参加を促した。

流し雛コンテスト

3月8日(土)～19日(水)

市内の小学3年生全員が作った流し雛821点を龍野城本丸御殿で展示。3月6日に、市長、中学校美術教諭、市内文化団体関係者、体験会指導ボランティアら35名が審査を行い、優秀な作品73点到賞を授与した。



龍野ひなまつり（雛人形と文化財の公開）

期日 平成20年3月15日(土)～23日(日)

会場 たつの市龍野城下町地区一帯

城下町龍野の町家、店舗等61軒を開放して、所有の雛人形や屏風、着物、文書等の所蔵品を展示。地域住民と外来の観客との交流を行った。会場提供のみの家へは、資料館所蔵の雛人形を貸し出した。また、今回は、雛人形だけでなく、日頃出すことの少ない屏風等の文化財も出してもらい、公開した。なお、公開に先立ち、神戸大学のグループに依頼し、文化財の資料調査を実施し、館においても、保存管理の指導を行った。

なお、実施に当たっては、運営ノウハウ等皆無に等しい状況であるため、11月6日から7日にかけて、会長以下13名が、ひな公開の先進地である鳥取県鳥取市用瀬地区、岡山県真庭市勝山地区、広島県福山市鞆地区を視察し、それぞれ実行委員会や担当者から、運営方法やノウハウ等を学んだ。

期間中は、関連行事として、雛の折り紙教室、人形浄瑠璃公演を行った。



下川原商店街



雛公開場所（雛と屏風を公開）



雛公開場所（雛と着物を公開）



雛公開場所（室内で公開）

雛の折り紙教室（講師：折り紙研究家 岡村昌夫）

3月15日(土)～16日(日) かどめふれあい館

『つなぎ折り鶴の世界』の著者である折り紙研究家岡村昌夫氏が講師、日本伝統の雛の折り方を指導した。

人形浄瑠璃公演

3月16日(日) 円光寺本堂

あわ工芸座が、「曽根崎心中」と「本朝廿四孝」を上演。定員150名を予定していたところ、300名の観客があり、立ち見席を設けて対応。



雛の折り紙教室



人形浄瑠璃公演

第16回 龍野ひな流し

期日 平成20年3月20日(祝) 揖保川河川敷

流し雛、ひなの凧あげ、人形供養、ひな流し句会を開催。

流し雛は、10月から2月にかけて地元の婦人らのグループによって作成。流し雛コンテストに参加した小学生の作品も各自が流した。また、着物を着た子供に参加してもらい、彩りを演出した。

ひなの凧上げ

日本凧の会龍野支部の協力を得て、雛にちなんだ形、絵の凧を上げてもらい、流し雛会場を盛り上げた。

人形供養

雛人形の供養を龍野ひな流し会で受付。欲しい人への橋渡しも行い、資料価値のある品については、資料館学芸員がチェックの上、保存し活用予定。



流し雛

ひな流し句会

市内と県内各地の同好者約150名による句会を開催。

(2) 地域との連携について

昔の道具見学体験会では、道具を実際に使っていた地域の高齢者の方をボランティアとして募集し、地域の高齢者と小学生がふれあいながら体験学習する機会を提供した。同時に開催したワークショップでは、地域の伝統行事である流し雛の作成を行い、地域行事のアピールと、行事への参加を促した。

龍野ひなまつりでは、地域の方に、自宅や店舗で所蔵の雛人形や文化財の公開を依頼し、応募のあった61箇所では雛人形や所蔵の文化財を公開した。また、公開に先立ち、それぞれのお宅の所蔵資料の調査を行い、所蔵する文化財資料を把握すると共に、資料の保存管理の方法についてアドバイスを行った。雛人形の飾り付けの際には、当館の職員が、飾り方や保存方法についてアドバイスを行い、文化財の保存に努めた。公開場所のみ提供のお宅には、資料館所蔵の雛人形を貸し出す等、館の所蔵品を有効活用した。

(3) 成果物について

ポスター、チラシ、マップ

(4) 参加者の反応

昔の道具体験会では、多くの道具を一度に見ることができる貴重な体験であり、見るだけでなく、実際に動かしたり触れたりすることで、昔の人のすばらしい知恵を知り、道具に対する関心が強くなった。また、実際に使っていた人から学ぶことで、昔の人がいかに苦労したか、使い方の工夫やコツを学ぶことができ、地域の方々とふれあう良い機会となった。(祖父母と住んでいる児童が少なくなっており、貴重な交流の機会となった。)

龍野ひなまつりは、シャッター街となっていた通りに、期間中、多くの来客があり、地域の人々に活力を与え、来客には町並みや風土に触れていただき、満足したとの声を多く聞くことができた。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

小学生を対象に、館所蔵の昔の道具を使用した体験学習会を開催することにより、小学生に資料館の存在や活動をアピールすることができ、もう一度資料館に保護者と共に足を運んでもらう「もう1回券」の利用も76名あり、将来の利用促進を図ることができた。

実際に道具を使っていた地域の高齢者と小学生が、ふれあいながら学ぶことにより、高齢者と子供たちの異世代交流の場を提供することができた。

ワークショップで、地域の伝統行事である「流し雛」を作成することにより、地域の伝統行事について関心を持ってもらい、行事への参加を促すことができた。

高齢化の進むシャッター街となった城下町地域において、地域をあげて、ひなまつりを開催することにより、市内外から多くの来場者を迎えることができ、地域の活性化につながった。

地域の人々と資料館が協同で行事を行うことにより、資料館と住民との結びつきが強くなり、地域の住民所蔵の文化財を把握し、保存管理についての指導を行うことができ、住民所蔵の文化財資料を将来へ保存していく契機になった。

(6) 新聞記事等

○新聞記事

昔の生活を体験

たつの市
4小学校

昔ながらの生活用品や
農具・道具の展示が二
十一日、たつの市立龍野
歴史文化資料館（龍野町
上郷）であった。市内
の四小学校から児童計百
人が訪れ、稲作の道具
やあんどん、ちやぶ白な
ど、かつての生活を疑似
体験した。

同館が導いた市内の高
齢者がボランティアを務
め、道具の説明や使い方
を解説。子どもたちは実
際、石臼で粉をきき、織
機を回し、あんどんをつ
くる。洗濯板、脱穀用の
農機具（千穂）など、
現在ではほとんど見られ
なくなつた道具が、集め
た。

建物内の一角は道徳
「暗い部屋で火を付けて
暮らした人たちの生活を
知ることができようか」

たつと語っていた。
西郷、東郷、青島
小学校が順次体験する。
（峰太郎）



ランプに火をともし子どもたち—たつの市立龍野歴史文化資料館

を消し、灯明皿やあんどんともし、炎の揺らめきを
人の明かりを体験。こぶ 見つめた。昭和東三小三
し大塚のランプに火を—の福井部乃さんまこは

神戸新聞（西播版）平成20年1月22日 朝刊 26面

同様の新聞記事 読売新聞（播磨版）平成20年1月22日 朝刊 31面
他に、ミニコミ誌、広報紙に掲載あり

すまし顔勢ぞろい

「龍野ひなまつり」始まる！

城下60軒で人形飾り付け

たつの市・龍野城下に
伝わるひな人形を「昔の
つり」が始まった。江戸
民家や商店が約六十軒
期から現代までの多彩な



ひな人形について説明を聞く観光客—たつの市龍野町下川原

ひな人形がショウアップ
ドールに飾り付けられ
ている。

城下町を徒歩で楽しん
でもらい、街のいきわい
を取り戻すと昨年から
始めた。住民らで実行委
員会をつくり、文化庁な
どが助成。展示場所は倍
増した。

一九六六年創業の井戸
精製造所では、店の土間
に妻の井戸真由美さん
（右）と長女麻美さん（左）
親子のひな人形を展示し
た。麻美さんは華やかな
七段飾りを置き、歴史
ある板屋の店内で鮮や
かな朱色が引き立ってい
る。真由美さんも、今回
に白わせた京都の実家か
らひな人形を取り寄せ
た。

奈良市から家族三人
で訪れた馬場あや子さ
ん（右）は「時代によつ
て並び方や持ち物が違
う。龍野の風習も感じら
れて面白」と話してい
た。

展示中の民家には、の
ほり歌と香巻札を掲示。
すべての展示場所が分か
る地図も配布している。

二十三日まで、午前十時
—午後四時。二十日は人
形供養とひな流しもあ
る。（古根川淳也）

神戸新聞（播磨版）平成20年3月18日 朝刊 29面

同様の新聞記事 西播磨タイムス 平成20年2月22日
神戸新聞（播磨版）平成20年2月28日 朝刊 27面
神戸新聞（播磨版）平成20年3月7日 朝刊 29面
読売新聞（播磨版）平成20年3月9日 朝刊 29面
朝日新聞（播磨版）平成20年3月10日 朝刊 13面
神戸新聞（播磨版）平成20年3月14日 朝刊 25面
他に、ミニコミ誌、広報紙に掲載あり

○テレビ、関連誌等

NHK「ニュース神戸発」 (昔の道具見学体験会)
平成20年1月22日 (2分程度放映)